

第一四話 老人星カノープス伝

もうかれこれ二〇年になるでしょうか。ある冬の夕まぐれ私は犬を連れて上町の自宅に近い町並みを散歩していました。このあたりは旧、築屋敷町と言って古い石垣の連なる住宅街で、聞くとところによると、坂本竜馬が修行に通った剣術の道場の在った所と伝えられています。そう言えば奥の方から竹刀の打ち合う音が聞こえてきそうな静寂な道を歩いてみると、向うから一人の老婦人が急ぎ足に歩いてきます。すれ違い際に、「あっ、もしや星の関さんではありませんか?」と声をかけられました。「そうですが、あなたは、、」と答えると、婦人は、「やはりそうでしたか。ああ良かった。実は私はもう八〇歳が近くなりました。此の世の見納めにカノープスを見たいと思って今から見晴らしの良い海に出かけるところです」と言った。

「それはいいことです。カノープスを見るには桂浜か種崎あたりの海岸が良いでしょう。カノープスは中国では老人星と呼んで、一度見ると長生きするといふ言い伝えがあります。

ぜひ観測して長生きしてください」と私は半分冗談交じりの言葉をかけて老女を見送りました。

カノープスとは南半球に位置する「りゅうこつ座」の一等星です。大犬座のシリウスに次いで、全天で二番目に明るい恒星ですが、南緯五二度の空にあって、日本からの観測が非常に困難です。高知県は北緯約三三度ですから、条件の良いとき南の地平線上僅かに四度に見えます。このカノープスを見ようと思えば、冬から春にかけての時期に、南の地平線に見える場所に立って、南の中空に輝いている全天一の明るいシリウスを先ず見つけ、それから視線をズーッと下に降ろして行くと、地平線すれすれの所にカノープスの光を発見する筈です。

やがて、それから一〇年の歳月が流れました。あのお年寄りは無事カノープスを見ただろうか？いまでもお元気だろうか、と時折考えていました。安芸郡芸西村の「天文学習館」では毎週天文台の一般公開が行われ、星を見る会が催されています。それは夏の公開の日でした。丁度「ヘール・ボップ彗星」と言う大彗星が見えている頃で、天文台は賑わってい

ました。会が終わった時、一人の老婦人が近づいてきました。私は「ハッ」としました。どこかで見た人です。

お年寄りにはにこやかな笑みを浮かべて語りました。

「いつぞやカノープスのことで大変に御世話になりました、、、、」

「アッ、あ那时的か？あの日カノープスは見えたでしょうか」と尋ねると、

「有難う御座います。あの晩、実は桂浜の竜馬の銅像のある高台に行ってカノープスを探したので御座います。しかし素人のゆえに目指す星はなかなか見付からなかったのです。でも折角タクシーで遠路やって来たのですから、諦め切れずに竜馬の銅像を見上げていたのです。そして何気なく竜馬の見つめている東南の海に目をやりましたところ、水平線上に低く光るものが御座います。明らかに星です。その明るい星は時間の経過と共に、まるで海を渡るように南の空にやってきて、ますます強く輝きはじめました。すぐ上空には普段見慣れた大犬座のシリウスが光っています。私は嬉しくて思わず万歳を叫びたい気持ちで、教えてくれた竜馬先生の銅像に手

を合わせて拜んで帰りました」と、老婦人は感激したように語りました。

「そうですか、良かったですね。いつの時代でも先見の明があり、時代をリードした竜馬は、星のことでも知っていたのですね」と冗談を言ってご婦人と別れました。婦人は孫らしい若い女性に手を引かれるようにして、元気な足取りで山を下って行きました。